

(1)概要

日時	令和6年2月15日(木)13:30~15:40	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) ※集合開催、web 開催併用	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	白石 倫子(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	藤田 太朗
	事務局	
	事務部長	清水 紀行
	教頭	豊島 秀多
	教頭	東川 彩 (事務局長)
	統括首席	坂田 真一
	首席兼教務部長	西橋 聖次
	首席	亀村 尚希
	首席	角尾 将司
	指導教諭	日置 節子
	小学部主事	伊佐敷 香奈
	中学部主事	槇野 健太
	高等部主事	西村 真也
進路指導主事	坂元 久美子	

(2)議事録

内容
① 校長挨拶【阪本校長】
② 参加者確認【東川教頭】
③ 報告事項 ア)学校教育自己診断について【亀村首席】 イ)個人カード導入について【角尾首席】 ウ)令和5年度学校経営計画評価及び令和6年度学校経営計画について【校長・准校長】
④ 協議及び提言【辻委員長】
⑤ 准校長挨拶【藤田准校長】
⑥ 事務連絡【東川教頭】

議事録

<p>阪本校長</p>	<p>① 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、ICT活用に関して府教委から視察が2回。</li> <li>・本協議会にて本校での取り組みに関して発表を行うので、忌憚ないご意見を頂戴したい。</li> </ul>
<p>東川教頭</p>	<p>② 参加者確認</p> <p>欠席 山崎委員 清水事務部長 途中参加 西橋首席・榎野中学部主事</p>
<p>亀村首席</p>	<p>③ 報告事項</p> <p>ア) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、教職員向けにアンケートをGoogleフォームにて実施。</li> </ul> <p>教職員の回答結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的評価90%以上が3項目。</li> <li>・授業や支援ツールとしてICT活用が進んでいる。</li> <li>・肯定的評価70%以下が3項目</li> <li>・教職員間の授業見学の機会が少なく、互いに学びあえる機会の設定が必要。</li> <li>・子どもたちのために授業の工夫をしたいという想いを大きく持つ教職員が多い。</li> <li>・カリマネ研修を通して、学校づくりをどうしていくかを考えるきっかけになった。</li> </ul> <p>保護者アンケートの結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より回答率は低下。回答率をどうあげていくかは課題。</li> <li>・肯定的評価90%以上が3項目。</li> <li>・肯定的評価70%以下が4項目。分からないという回答率が高い。</li> <li>・進路指導に関しては、各学部にて進路に対する説明や授業での取り組みを進めていく。</li> <li>・進路ガイダンス・地域、他校交流、校内実習、学部間交流など</li> <li>・一人一台端末について 昨年度より肯定意見が多い。 使用例…生徒にあった課題をタブレットにて配付。 手本の動画を共有。 コミュニケーションツール(アプリ等を利用)</li> <li>・PTA活動…昨年度より7%増。スライドにて秋祭りの様子を伝える。 高等部の生徒も店番として参加するなど、児童、生徒、教職員、保護者が一体となって楽しむことができた。</li> </ul>
<p>角尾首席</p>	<p>イ) 個人カード導入について スライドに沿って発表</p> <p>導入のきっかけとしては、以下の通りである。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理・情報収集の課題が浮き彫りに。例)連絡先の変更</li> <li>・個人情報漏洩のリスク。</li> <li>・保護者の負担を減らす。</li> </ul> <p>課題への対策として一元化システム【個人カード】が導入のねらい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集に掛かる業務の整理。</li> <li>・情報アクセスの効率化。</li> <li>・個人情報の誤配付、紛失漏洩リスク減。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運用を始めて1年だが、まだ整っていない現状はある。</li> <li>・在校生に関しては、入力内容の変更を年度末に実施。</li> <li>・新入生に関しては、入力を依頼。家庭訪問時に完成の予定。</li> </ul> <p>導入効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、課題に対しての効果は少しずつでてきている。</li> <li>・業務削減に関しては、これからである。</li> <li>・危機管理に関しては、スムーズに行われた効果がある。</li> </ul> <p>今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんの希望にすべて応えることができるわけではないが、意見を参考にできることはしていく。</li> <li>・システムづくりができる教職員が今は在籍しているが、これらを維持していくのに教職員の育成や人材確保が必要。</li> </ul>
辻会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答</li> </ul>
冨永委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに一人一台端末で、教員への PC 配置はどうなっているか。</li> </ul>
亀村首席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCは職員室に一人一台。タブレットは、子どもに配付して余った分を教職員に分配している。次年度より新しい持ち運びができるPCが教員に順次配備される。</li> </ul>
辻会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信状況についてはどうか。</li> </ul>
亀村首席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりにくい教室もあるが、Wi-Fiがあるので、概ね問題はない。</li> </ul>
辻会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からのアンケートの回収率の低下の要因は何が考えられるのか。</li> </ul>
亀村首席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グーグルフォームでの回答が考えられる。去年はeメッセージで実施。</li> </ul>
辻会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グーグルフォームでの実施は大きな要因であると考えられる。個人カードに関</li> </ul>

	<p>しても保護者サイドのメリットの説明が十分にできているか。上手いかわないケースが出てくるのでないか。回答率をあげるにはアンケートの取り方の工夫を。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の80%超えは他校でもなかなかないことで、良い。</li> </ul>
川橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人カードの回答率はどのくらいか。</li> </ul>
角尾首席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入力漏れ等の課題はあるがほぼ100%である。項目の入力漏れはある。</li> </ul>
藤本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所自己評価の実施義務があり、園でも決められた項目について保護者、職員へアンケートをとっている。寝屋川支援学校は項目の内容・数が整理されており、アンケートとしては答えやすいと感じた。</li> <li>・評価結果も共通した傾向があるように思うので、人材の確保、育成に関して寝屋川支援学校の内容を参考にしていきたい。</li> </ul>
白石委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット活用について、先生たちは活用しているのだろうけど、保護者にそれがなかなか伝わらない。休業中の様子を投稿し始めて2年、投稿数や投稿者が固定されつつあり、伸びがないのはなぜか。</li> <li>・個人カードについて、何度も同じことを書く手間が省けて良いが、デジタルに頼り過ぎると、大事なことを見落としている可能性もあるのではと考える。</li> </ul>
富永委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表より、ICT推進や地域交流、学部交流については、素晴らしい。地域交流に関しては、センター的役割を深めていかなければならない。放デイ、地域との学校の連携の強化が必須。交流の位置づけをどうしていくのか。</li> <li>・個人情報はどう管理していくのか。漏れることはないのか、漏れたときはどうするか、システムに詳しい教職員が不在になったらどうするか。</li> <li>・研修会の実施が必要。活用しきれていない場面がある。活用できるための研修を。情報管理への怖さを減らす。情報に強い教職員から校内でどう広げるか。</li> <li>・研修について、普段の業務に加えて研修を受けるのは負担になることも。動画等でいつでも見ることができ環境、少人数制で楽しく受けることができる雰囲気づくり等、実施等の工夫が必要。</li> </ul>
阪本校長	<p>ウ) 令和5年度学校経営計画評価及び令和6年度学校経営計画について</p> <p><b>令和5年度学校経営計画評価について</b></p> <p>【小中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチフレーズは50項目あり、ほぼ達成となった。</li> <li>・未達成は9項目であった。</li> </ul> <p>働き方改革は、ストレスチェックの回収率が低くなったことも要因か。</p> <p>教材バンク活用は来年度システム変更のためストップしている状態。</p> <p>アセスメントは、活用しているが実践の共有に至っていない。</p>

	<p>他、定時退庁、分掌改編による業務の平準化、図書館活用等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分上回った項目は、3項目。</li> <li>・今年度の分析については、資料参照。</li> </ul> <p>令和6年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次大阪府教育振興基本計画より、前期5年分についてすべて踏まえて学校経営計画を作成している。</li> </ul>
藤田准校長	<p>【高等部】</p> <p>令和5年度学校経営計画評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答率が低かったため、検討が必要。</li> <li>・保護者と連携して卒業後の進路に向けて取り組んでいきたい。</li> <li>・キャリア教育の推進をはかり、高等部1年生から働く意欲がみられた。2年生も目的意識が明確になってきている。</li> </ul>
	<p>令和6年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動を第一優先にして立案を行った。</li> <li>・意思決定を行っていく機会を増やし、主体的に取り組む姿勢を養っていきたい。</li> <li>・選択していくための手立てを増やすため、生徒の実態に応じて、サイン、タブレット、絵カード等、活用する機会を増やす。</li> <li>・キャリア教育プログラムの項目と1部の授業の目標がリンクできるようにしていく。次年度は2回保護者に提示予定。</li> <li>・担任が変わっても継続的な支援に繋げていきたい。</li> </ul>
辻会長	<p>④ 協議及び提言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営計画についての質疑応答</li> </ul>
藤本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の項目では、ストレスチェックの数字は上がる方が良いのか下がる方が良いのか。園では学校を上回る数字となっているので確認のため。</li> </ul>
阪本校長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下回る方が良い。学校経営計画を訂正する。</li> </ul>
藤本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革については、園でも会議のあり方や文書の見直し等に取り組み、超過勤務の削減に努めているが、なかなか顕著な成果がみられない。一定の療育の質を保ちながら働き方改革をしていく難しさを感じているが、支援学校を参考にしながら、引き続き園でも取り組みを進めていきたい。</li> </ul>
川橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月29日に中学部に向けて実習を行う。</li> <li>・ストレスチェックは会社でも進めている。精神保健福祉士も在籍しているので、アプローチ等協力できる。</li> </ul>

白石委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、参加することで学校のことを身近に知れて良かった。学校での取り組みについて、保護者にどう伝えていくかは課題になっている。PTAとしても今後考えていきたい。</li> <li>・教育の質を維持しながら働き方改革を進めていくことは、保護者のニーズもありバランスが難しいと思う。PTA会長としても、どう発信していけるか考えていきたい。</li> <li>・進路に対しては不安に思っている。情報も年々変わってきている。発信の方法を工夫し、情報交流の機会がもっとあれば良い。</li> <li>・子どもへの指導法や保護者対応など、先生たちはストレスを抱えているのではないかと思う。研修は不安軽減のひとつになると思う。先生たちが笑顔の中で子どもたちが過ごすのが一番だと思うので、今後もよろしくお願いします。</li> </ul>
富永委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と働き方改革とのバランスを取りながら、取り組みがスムーズにいくようにするにはどうすれば良いかということを考えていく必要がある。</li> <li>・個人カードは負担軽減の一つになるかと思う。データベース化していくと危機管理上の問題も生じる。核になる部署がしっかりしていると楽になる。そこをどうしていくかということがポイントとなる。また、教師のレベルアップを図ることも大きなポイントとなる。</li> <li>・それぞれの支援学校のカラーや強みがあると思うが、寝屋川支援学校では、それがICTの活用ではないかと考えている。ICTの中には、教職員の情報管理も含まれる。熊本大学教育学部附属特別支援学校の例のように、情報、カリマネ等の部署が情報を発信していくことも可能ではないか。</li> <li>・授業づくりについては、教員相互での観察や研修も一つだが、実際に行っていくことは大変となる。系統性や分析のベースがあれば良い。寝屋川支援学校では、いろいろな取り組みが着実に積み上げられているように感じている。今取り組んでいる、ICT、カリマネ、授業づくり、研修等を繋いでいければ良いのではないか。横に広がっている状態のものを、核を据えて関連付けていくと良い。</li> </ul>
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、計画に沿って全体としてうまく運営していけたのではないか。</li> <li>・来年度も計画に沿って進めてほしい。</li> </ul>
藤田准校長	<p>⑤ 准校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、ICTの活用に一層力をいれていきたい。情報共有については検討を重ねていきたい。</li> </ul>
東川教頭	<p>⑥ 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録は確認していただき、HPに記載する。</li> </ul>